

Podere Luisa ポデーレ ルイーザ

イタリア最大級の生産地域にありながら、固定概念にとらわれず、謙虚に伝統を守る姿勢をもった造り手。



トスカーナ中部、シエナより内陸に50kmほど、アレツツォ近郊の丘陵の町モンテヴァルキ。クラッシコとは全く異なる親しみやすさがありながら、深い伝統を持つ地域。サウロ ブルザツリは1999年、家族で代々営んできた 2.5ha のブドウ栽培と醸造を引き継いだことから始まる。

彼の父は昔から変わることなくワイン造りを行ってきた農民(Contadino)であり、畑では最低限の銅と硫黄物以外一度も使ったことがない。(1980年代、この地域でも近代化が進んだが、彼の父はそれを一切受け入れなかった。)年2回の鋤き込みと手作業中心の栽培、醸造においても一切の変化を受け付けない、唯一変わったのは牧草や作業道具の運搬や移動にトラクターを使うようになったことぐらいであろうか、、、。サウロはこんな父の偉業(たしかに当時は周囲から変人扱いされていたこともあったものの)に敬意を表し、自分の生まれたモンテヴァルキのワイン造りを残していくことを決意、2002年、2004年と段階的に植樹を行い、2008年よりキアンティのボトル詰めを開始。

畑は 2.5ha の高樹齢の畑(1 Boschetti)と、5~10年の畑、合わせて 5ha。標高 300~350m 土壌は非常に粘土質が強く、石灰は少なく砂が多い土壌、そして何より標高が高く丘の上にあるため、日当たりのよさと風が吹き続ける好条件。理想的な環境が整っている。ボトル詰めはわずか 8000本。

サウロの考える農法は基本的に不耕起、無肥料による栽培を行う、畑で使用するのは最低限の銅と硫黄物、またバイオダイナミ式の調剤も一部使用している。植樹したばかりの若木であっても、全く施肥を施さない。樹にとって厳しい環境で成長するほど、樹にとって良い影響を与えると考えている。

また、醸造に関しても妥協のないこだわりが垣間見える。すべてのワインにおいて収穫後、一切除梗せずに長いマセレーションを行っている。ピアンコでさえ約半分は除梗せず、果皮もそのままの状態ですべて20日以上マセレーション。(半分というのも、減らしたわけではなく、いい状態で熟成に至った果梗が半分程度であったため。)

キアンティはすべて除梗せず、20~21日のマセレーションを行う。

果梗は熟成していない(まだ青味のある状態)で加えてしまうと、臭みや余計なタンニンなどの影響があると考えられてきた。

しかし、十分に熟成した健全な果梗であれば、果皮や種子とともにワインを保護し、醗酵の速度を穏やかにするといったきわめて大切な役割をする、と語るサウロ。結果、醸造過程でSO2を使用することなく、安定した状態を保つことにつながっている。

大型のセメントタンクにて温度管理することなく醗酵、大樽にて熟成。

生産量の少ないピアンコは古バリックにて熟成を行う。

途中オリ引きを行うのみで、ノンフィルターにてボトル詰め。



ピアンコ アムネジアはその名の通り「忘れ去られた」ワイン、高樹齢のトレビアーノ、マルヴァージアを半分除梗せず 20 日のマセレーションを行い、ノンフィルターにて瓶詰め、祖父の仕込み方を再現。現在も造っているスフーゾの雰囲気を持ったイル チオットロ。イ ボスケッティは 2009 年に醸造したキアンティでありながら、DOCG の官能検査で落とされてしまったが、あえて再検査を受けずにさらなる熟成を経てキアンティの名を冠せずリリース。これほどまで忠実に伝統を守っていても、現代のキアンティの基準にそぐわないという不条理に、正直虚しさを覚えてしまう。几帳面なほど丁寧な仕事、そして出来上がるワインの持つ「香り」の素晴らしさ。そしてどこか親しみを持てる味わい。キアンティという名前を大切にしながら、思い描く父の時代のキアンティの味わいをこれからも楽しむことができる。



Podere Luisa ポデーレ ルイーザ

トスカナーアレッツォーモンテヴァルキ

ワイン名	ヴィンテージ	種類	容量	メモ
"Pensiero" Toscana Rosso ペンスイエロ	NV (18+19)	赤	750ml	サンジョヴェーゼ主体、樹齢 10~20 年前後の畑。 収穫後、除梗せず果皮と共に 4 週間、緩やかに醗酵が進む。圧搾後そのままセメントタンクにて 24 か月熟成。
			3000ml 《BIB》	地元のレストランや個人向けのスフーゾ(量り売り)でしたが、コロナウィルスの影響で、地元消費が停止、、、行き場を失ってしまったワインを、日本向けにボトル詰めしてもらったもの。
Amnesya アムネズィーア	2019	白	750ml	トレビアーノ トスカーノ 50%、マルヴァージア ピアンカ 50%、樹齢 40 年~。収穫後、果皮と共に約 1 週間程度、野生酵母による醗酵。圧搾後古バリックにて 8 カ月熟成。ノンフィルターにてボトル詰め。2019 年は果皮の成熟が進まず、例年のようなマセレーションを行えなかった。その分果実的な味わいが前面に出ている、心地よさを感じるヴィンテージ。
Il Ciottolo Toscana Rosso イル チオットロ	2014	赤	750ml	サンジョヴェーゼ主体、カベルネ ソーヴィニヨン 10%、樹齢 10~20 年。収穫後除梗せず、果皮とともに約 2 週間、野生酵母にて醗酵。圧搾後もセメントタンクにて 12 か月の熟成。サンジョヴェーゼに少しカベルネを加えた飲みごたえのあるテーブルワイン。カンティーナに残っていた 2014 ヴィンテージ。 溢れんばかりの熟成香と果実的な柔らかさ、まさに飲み頃といえる味わい。
"Giuno" Chianti Riserva ジューノ キアンティ リゼルヴァ	2015	赤	750ml	サンジョヴェーゼ、カナイオーロ、コロリーノ、トレビアーノトスカーノ、樹齢 55~60 年。収穫後、セメントタンクにて 3 週間の全房醗酵、野生酵母にて醗酵を行う。圧搾後、栗の木の樽にて 48 か月熟成。2015 は官能検査を落ちたが、一部を残し、さらに 12 か月の樽熟成を経て、官能検査を通過し DOCG の認可を経たという、信念のキアンティ リゼルヴァ。

Ombra di Rosa オンブラ ディ ローザ	2019	ロゼ	750ml	サンジョヴェーゼ、樹齢 60～70 年(カステルベルソの畑より)。収穫後 24 時間のマセレーション、野生酵母による醗酵を促す。その後セメントタンクにて 12 か月の熟成。日照が乏しく果皮の成熟を感じられなかったヴァインテージ。一部はマセレーションをせず、直接プレスした果汁を加わっている。例年より非常にフレッシュさ、フルーツを強く感じるロザート。
La Moraia ラ モライア	2016	赤	750ml	カベルネ ソーヴィニヨン、樹齢 15～20 年。カベルネ ソーヴィニヨン、樹齢 12～15 年。収穫後除梗せずにセメントタンクにて 3 週間のマセレーション、野生酵母にて醗酵。圧搾後古バリックにて 24 か月の熟成。カベルネのイメージを変える軽やかな酸と香りを持つ。
EXV Olive Oil エストラ ヴァージン オリーブ オイル	2020	オイル	500ml 1000ml	ペンドリーノ、モライオーロ、フィオレンティーノ、樹齢 30～40 年。 収穫は 10 月末より行い、すべて手摘み。搾油量の少ない酸度の素晴らしいオリーブオイル (酸度 0.21%)
